



左上是福岡市の商店街（上町）の一部、右上は同じく銀座通りの写真です。当時は、自動車はまだめずらしく、自転車が多く通っている様子がわかります。また、道路で遊ぶ子どもたちも大勢いました。普段着としては着物が普通で、乳児は背負いひもで背中に背負われています。映画は、娯楽として人気があり、昭和20年代後期の入場料金は100円でした。また、県内が舞台の映画としては、群馬交響楽団をモデルとした「ここに泉あり」が昭和30年（1955）に公開されました。

右下の写真は、「ニュースカーによる街頭座談会」の様子を撮影したものです。ニュースカーは、昭和23年（1948）から活用された群馬県の広報車です。トラックに拡声器を積み、停車地点で電源を借りて放送する方法で始まり、写真の頃（昭和26年（1951））には、トラックの台にバスの車体を乗せた車の上に拡声器を付け、移動中の放送ができる設備になりました。右手前の人、戦時服を着ています。当時の街角の様子がしのべられます。

